

病害虫発生予察特殊報 第 1 号

作 物 名：もも、すもも（日本すもも、プルーン）、うめ等核果類

害 虫 名：クビアカツヤカミキリ

学 名：*Aromia bungii*

1 発生確認経過

これまで、本県ではクビアカツヤカミキリは未確認であったが、令和 8 年 7 月 23 日に本種の成虫の死骸が東信地域で発見され、県の環境部よりプレスリリースが発表された。その後、同地域の民家のうめ、すもも（日本すもも、プルーン）の樹園地でそれぞれ生きた成虫と、クビアカツヤカミキリによるものと思われる「フラス」が発見された。

本種は、中国、朝鮮半島、ベトナム北部あたりが原産で、2012 年に愛知県で確認されて以来、多くの都府県で確認されている。令和 8 年に入ってから、岐阜県、山梨県、神奈川県、香川県から特殊報が発表されている（7 月末現在）。

※フラス：幼虫が木に空けた穴から排出するフンと木くずの混合物

2 形態的特徴及び生態

成虫の体長は 25～40mm。触角は長く、特にオスの触角は体長の 1.5～2 倍の長さがある。雌の触角の長さは体長とほぼ同じかやや長い程度である。全身は光沢のある黒色だが、頭部と胴部の間のクビ（胸部）は赤く、他種と区別しやすい（図 1）。年 1 回、6 月中旬から 8 月にかけて羽化し、樹から脱出する。本種はカミキリムシ類の中でも産卵数が多く、繁殖力が強い。

幼虫は乳黄白色。樹木の内部で 2～3 年かけて成長する。その間に木くずとフンの混じった大量のフラスを穴から樹の外へ排出する。本種の出すフラスは明るい色をしており、かりんとうのような細長い形状をしている。また薄い木くず片を多く含んでいる。フラスは木の根元に大量に積もる（図 2）。

本虫はバラ科樹木を加害し、国内では、モモ、スモモ、ウメ、サクラといったサクラ亜科に属する多くの樹種で被害が報告されている。

3 被害の特徴

被害は幼虫によるものになる。幼虫が樹幹内部を食い荒らすため、樹が衰弱し、枯死する。

4 防除対策

本種を対象とした登録農薬があるので、登録を確認して使用する。また、カミキリムシ類を対象とした農薬も使用できる。食入孔から注入する農薬を使用する場合は、出来るだけフラスを取り除いたうえで、ノズルを深く差し込み、薬液を注入する

一旦侵入すると壊滅的な被害を生じさせる恐れがあるため、以下のような各種防除を同時に行う必要がある。

【防除対策】

- ・成虫をみつけたら捕殺する。
- ・疑わしいフラスを発見した場合は、食入孔を確認し、針金や千枚通し等で中の幼虫を刺殺する。
- ・成虫の拡散と樹皮への新たな産卵を防ぐため、被害部を0.3mm目合いの白色防虫ネットや白色防草シートでしっかり覆う。
- ・被害が大きい場合は伐採し、破碎、焼却、くん蒸等を行って処理する。

※ブラックライト（UVライト）を当てると卵が光るため発見しやすい。

また、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が作成したパンフレット「外来カミキリムシ総合対策マニュアル」

(URL:https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/175662.html)や国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所の「クビアカツヤカミキリの防除法」 (URL:<https://www.affpri.go.jp/pubs/chukiseika/5th-chuukiseika12.html>) が参照できる。

なお、本種は特定外来生物に指定されているため、生体の移動・持ち運びは固く禁じられている。成虫を発見した場合は、その場で直ちに捕殺するとともに、病虫害防除部もしくは農業農村支援センターに連絡する。



写真1 クビアカツヤカミキリの雄成虫



写真2 株元に積もったフラス

(問合せ先)

担 当	病虫害防除部
電 話	026-248-6471
ファクシミリ	026-248-6473
電子メール	bojo@pref.nagano.lg.jp